



山形国際ドキュメンタリー映画祭

「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」

開設記念上映&シンポジウム

# 100年後、映画は 震災のなにを残し、 伝えられるのか？

シンポジウム登壇者： 開沼 博 (社会学、福島大学)

高森 順子 (阪神大震災を記録しつづける会事務局長)

阿部マーク・ノーネス (映画学、ミシガン大学)

11月29日[土] 13:00-17:30

東北芸術工科大学 サクラダシネマ

山形市上桜田3-4-5

デザイン工学実習棟B 1F

料金：一般800円(資料代) / 学生無料

主催・問合せ：認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭

Phone: 023-666-4480

共催：東北芸術工科大学

助成：平成26年度公益社団法人企業メセナ協議会 GBFund

平成26年度公益信託荘内銀行ふるさと創造基金



山形国際ドキュメンタリー映画祭  
YAMAGATA International Documentary Film Festival

山形国際ドキュメンタリー映画祭  
「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」  
開設記念上映&シンポジウム

11月29日[土]

13:00 主催者挨拶

「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」概要紹介

13:30-14:48 上映『宮戸 復興の記録 2011～2013』

ゆふいん文化・記録映画祭2014 松川賞

監督：飯塚俊男 / 2014 / 58分

監督質疑応答



- 休憩 -

15:00-15:45 「Archiving Disaster 震災をアーカイブ化すること」

講演：阿部マーク・ノーネス (ミシガン大学教授)

上映：題名不詳・関東大震災 (宮内省の震災救護活動) 8分

題名不詳・関東大震災 (帝都復興の様子) 10分

(神戸映画資料館収蔵)

15:50-17:30 シンポジウム

「100年後、映画は震災のなにを残し、伝えられるのか？」



開沼 博 (社会学、福島大学)

福島県いわき市生まれ。東京大学大学院学際情報学府修士課程修了。現在、同博士課程在籍。専攻は社会学。福島大学つくしまふくしま未来支援センター特任研究員。これまでに福島原発事故独立検証委員会(民間事故調)ワーキンググループメンバー、復興庁東日本大震災生活復興プロジェクト委員を務める。著書に『漂白される社会』(ダイヤモンド社)『フクシマの正義「日本の変わらなさ」との闘い』(幻冬舎)『「フクシマ」論 原子カムラはなぜ生まれたのか』(青土社)など多数。



高森 順子 (阪神大震災を記録しつづける会事務局長)

2010年より阪神・淡路大震災の手記集を出版している「阪神大震災を記録しつづける会」事務局長。2011年4月より3年間、阪神・淡路大震災の展示・研究施設「人と防災未来センター」において、震災資料を保存、公開する実務を担当。現在、大阪大学大学院博士後期課程在籍。専門はグループ・ダイナミクス。



阿部マーク・ノーネス (映画学、ミシガン大学)

ミシガン大学教授。アジア映画を専門とする。1990年以来、山形国際ドキュメンタリー映画祭(YIDFF)と関わり、日米映画戦(YIDFF '91)、世界先住民映像祭(YIDFF '93)、電影七変化(YIDFF '95)の特集プログラムをコーディネート。日本映画について『Japanese Documentary Film: The Meiji Era through Hiroshima』と『Forest of Pressure: Ogawa Shinsuke and Postwar Japanese Documentary』の2冊を執筆。

司会：小川直人 (YIDFF 2013「ともにある Cinema with Us」コーディネーター)